

学力テスト日本一の秋田県の教育を探る

文部科学省は、8月27日、公立小中学校できめ細かな少人数指導を行うため、「教職員定数改善計画書」を発表した。それに伴い「義務標準法」改正案を来年1月の国会に提出する予定です。来年度から8年間で教職員を約1万9千人増やし、少人数学級化を目指します。

【文部科学省計画】

40人 ↓ 50人	2011年度	小1・2年生	
	2012年度	小3年生	
	2013年度	小4年生	
	2014年度	小5年生	中1年生
	2015年度	小6年生	中2年生
	2016年度		中3年生
35人	2017年度	小1年生	
→30人	2018年度	小1年生	

(読売新聞記事より)

子ども達の個性や能力を見極めながら指導するには、少人数に限度は無いと思います。実際、教壇から目に入る人数は、30人以下だと思います。同時にチーム・ティーティングが導入されるともっとよいと思います。



チーム・ティーティングとは、複数の教師が協力して授業を行う指導方法。

学力テスト日本一の秋田県の教育現場はどうなっているのだろう？

8月19日、秋田県庁で秋田県の取り組みを伺いました。

学力テストとは：「全国学力・学習状況調査」、小学校6年、中学校3年生を対象に行われる。
調査目的：義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

【秋田県の学力を支えている主な特徴】

1、少人数学習推進事業（2001年～ 30人学級スタート）

趣旨：子どもの個性を生かし、子どもの多様性に応える教育活動を展開
学級編成など

①小1・2と中1 30人程度の学級編成

チーム・ティーティングの導入

②小3～6と中2・3 基本教科で20人程度の少人数授業ができるように
臨時講師を配置

複数の先生がいることで子ども達は見てもらえるという安心があると思います。千葉市内でもテストケースでやっていたと思います。

2、学習状況調査（1999年～）

県＝学習指導要領の定着度の把握、少人数学習の成果や課題の把握
各学校＝自校の実態や課題の把握、学習指導の工夫改善のための資料

3、学校訪問指導

授業研究が盛んに行われている

1人の教師の授業について他の先生が研修+県の指導主事が指導

分からないところを分からないままで先に進むと授業がドンドンわからなくなり、学力の差が開いていきます。分かれば、勉強も面白くなりますね、

【その他】

・スーパー・ティーチャー（2010年～）

教育指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し、学校の教育力を高める。

2010年は20名配置

【児童生徒質問誌調査結果から見えること】

特に、家庭生活が安定しており、家庭学習が習慣化している。また、児童生徒は学校の授業に積極的に取り組んでおり、地域への関心も高いというのが特徴（秋田県教育委員会資料より）

〔家庭学習の充実に向けて〕（秋田県教育委員会資料より）

1、学習習慣づくりのポイント

- ① 決まった時間に机に向かう
- ② 机の上には学習用具だけを置く
- ③ 「ながら勉強」をしない
- ④ 文字をていねいに正しく書く
- ⑤ 復習を大事にする
- ⑥ 本に親しみ、感性と知的好奇心を育む

子どもがのびのびと学習に取り組むためには家庭が心配や不安の無い居場所であることが第一条件です。

2、これくらいは取り組もう～学習時間～

小1＝20分～中3＝100分

3、ご家庭の方はこんな関わりを

- ① 早寝・早起き・朝ごはん(生活のリズム)
- ② 親からすすんであいさつをしよう
- ③ 子どもの行動に感心をもとう
- ④ 親子の会話を大切にして、子どもとの触れ合いをもとう
- ⑤ 頑張ったときにはちゃんと誉めよう



昭和時代には当たり前と言われてきたことのような気がします。

〔学力の向上は日々の授業の充実から〕 ——児童生徒の視点に立った授業（算数・数学）

- ①自力解決の場面 問題を解決済みにする時間ではない
 (例) 自分で考え、自分の考えを持つ
 自分の説明の仕方を考える
 分からないこと、解決すべき点に気付く
- ②学び合いの場面 課題意識が無ければ学び合いは成立しない

学び合いの意義

- ・ 他の考えに触れる、理解を広げる
- ・ 課題を焦点化し、共に問題を解決する
- ・ いろいろな考えを検討・整理する
- ・ 重要なことがらと共有する、まとめる
- ・ 他の視点で自分の考えを振り返る

〔授業の質の改善：算数・数学〕

- ① 「分かった」を実感できる
- ② 「活用する力」を伸ばす
- ③ 「もっと学びたい」と感じる

必要な情報を取り出し、整理する力
 関連付けたり、結果を降り返って思考する力
 数学的に表現する力

これらは、勉強だけでなく、社会生活に必要な知識としても有効だと思います。

？何故 平日 机に向うのか？

宿題 学校の授業だけでは身につかない
 家庭学習を重視→子どもがやってきたノートに先生は翌日コメントをつけて返す
 県内に塾が少ない 小学校の塾通い＝2割以下
 中学校3年春＝3割強（部活動が終わる夏の終わりに増加）



首都圏と北東北という地域の違いはあるとは思いますが、基本的なことは同じだと思います。勉強だけでなく、子ども達にとって何が必要かを考えられる時間でした。